

## <耳学問>

① 永遠はない。地球が、ずっと今のままだけはない！

昔のアメリカの小説で、伝染病が広がり人間が減るとい  
ものがあったが...

( 昨今のコロナウイルス ..... ではないとしても )

人間は、その意志にかかわらず、いつかは滅びる

なぜなら、50億年後には太陽は燃えつきる。  
いまも、実際に、大気圏の様子はかわってきている

一人の人間の一生など、ほんのわずかな時間

猿から人間が分かれたのも、800万年~400万年前。  
つい最近のこと。

⇒ 働く機会、学べる機会があるならやればいい。  
やりたいこととやるのに勇気は不要。

学ぶ → “生”の質が向上する

「英語道弟子課程弟子：弟子選考試験」を受験したいと  
言うのに、弟子になりたいと言うのに

ある受講生の方は数ヶ月悩まれたとのこと。 “勇気がいる”と

→ 先生は笑いはされた。  
やりたいこととやるのに勇気など要らない

その受講生の方は治療家で、ご自分の治療院も開かれ、海外で教える活動もされている

その受講生の方の目標 ... 世界一の治療家になる

↓

このことは、弟子として世界的教養人を目指すことにつながってくる。

その受講生の方の悩みは、他の弟子と同じようにできるかどうか不安という悩みだったとのこと。

→ 入ってしまった分らない。(先生に引き上げていただいたから) けれど、外側からみると他の学校で、ここまで教授していただけるところはない人として導いてくださる先生は他にない。

私が悩んだ、迷った理由を少しお話しした際

先生から“融合”という言葉をおっしゃった。

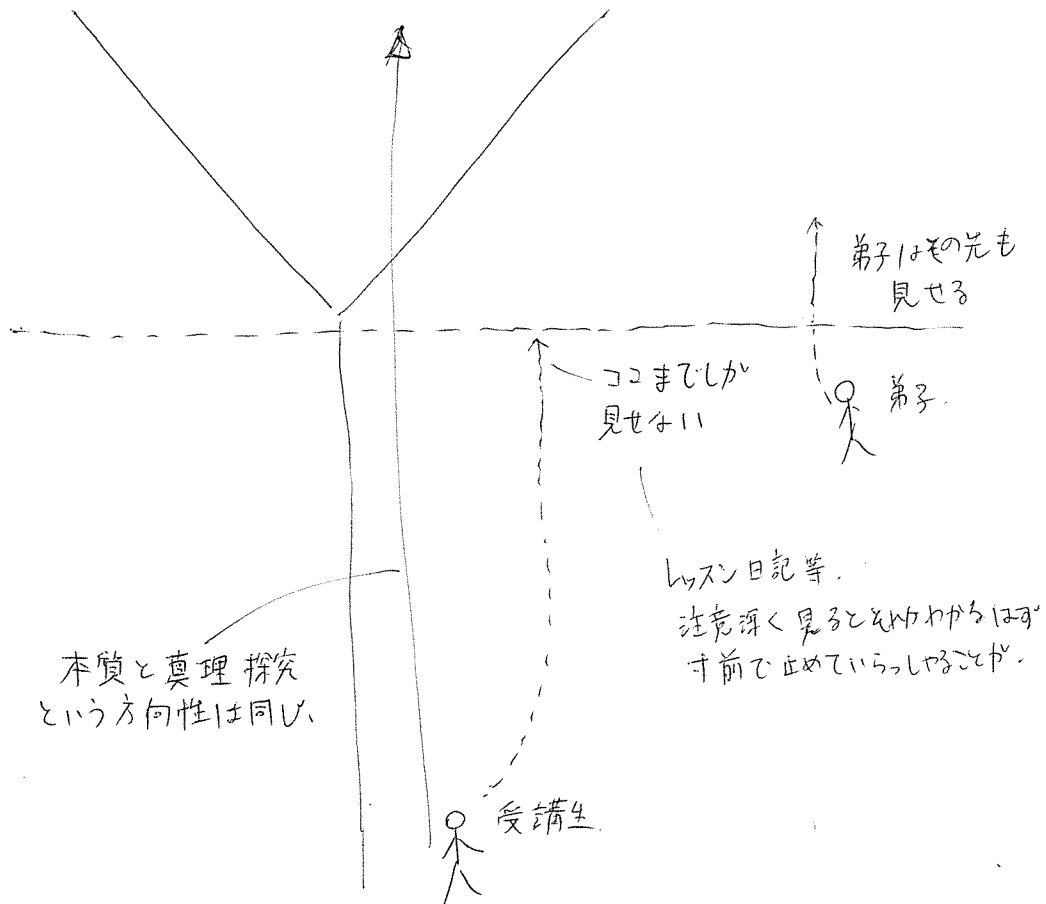
先生にすべてを任せることと先生に甘えることはちがうこと  
先生にすべてを任せることと自分の足でしっかりと立つことはちがうこと。  
先生にすべてを任せることと自分で考えないことはちがうこと。

ただ今でも思うことは、先生が導いてくださるということは、ある意味、衆を以てする先生のように血の太い思いは努力は、していない。支えて、導いて引き上げていただいている。  
この事実をしっかりと認識して、もっともっと努力をしまひといけないということ。そうしなければ、本当の道は、本当の光は見えないということ。

向いている。  
 後講生であっても、弟子であっても、向かっている方向は同じ。  
 先生は、最初から本質・真理を教授してくださっている

違いは、先まで見せるかどうか。

- ✓ 弟子には、先を見せる
- ✓ 受講生には、あえて先を見せていない (ついてこれないから) 空手の寸止めのようなもの



何年も先生の下で学ぶのであれば、本当は弟子にならないと  
もったいない。

(けれど、それは人による。それぞれの人生。)

10年近く通っている社長の奥さん、きっとこの先も弟子になることはない。  
彼女が深いところまでいがないのは、ある意味夫婦円満の秘訣

ご主人は英語が喋れる 最初はすごいと言っていたのが、  
1年後ぐらいには大したことがないと言う

ご主人にノートを見せてない、見せても理解できない。  
逆に心の狭い人は、ヤキモチをやく。

イングリッシュヒルズで、先生の下で学び続ける。奥さんのコツ

ノートを見せてない

猫をかう ... 注意をそちらに向けろ。

⇒ 人生それぞれ、何か幸せかは本人が決めることだと思う。  
きっとこの方(奥さん)はそれで幸せなのだと思う。

私は先生の下で、本質と絶対的真理の探求の道と歩きたいと思つた  
歩くと決めた。

自分だけの intellectual tower をたて。  
そして、自分が真に実行すべきことを実行する。  
社会のため、他者の幸せのため。  
自分の、神から賦与された命を使い。  
命を全うする。

英語には 2つある

(1) 文語 ... 書く英語

(2) 口語 ... 話す英語

例えば、定冠詞 決して文法書通りではない!

口語では定冠詞の音が消える。逆に文語にならないものが  
でたりする

日本語も同じ

"usage" 教養人や作家など。  
皆、自分なりの "usage" がある

⇒ 慣れていくしかない  
くり返しのライクセッション

先生が喋られる言葉で、辞書に載っていないもの

→ 文書教材等に、いつか、見つけることかできる  
先生が意図的にされていらしゃる。

(  
見つけたときには、忘れたいものとする。)

(2020. 3. 21 (土) 自習室にて)

「世界レクニルハの道」の文書教材 (2020. 3. 19.)

"No disciple needs to be ecclesiastical as a nonsensical form superficially"

についての話題で教授いたったこと。

( beautifully melted  
Natural fusion ... )

→ 私が言ったこと、想像したこと。

先生の精神性の中で、自然体で生きることが出来る。

ルールが不要になる。

→ 柱、基礎がなくても家が倒れない！  
それ自体が弟子の一部になる。

法律 ... 本来は無いのがベスト。 下等動物のための学問

人間が、ルールがないと、モラルや倫理を守らないうえ、逸脱する。

先生が作られたルール ⇒ 弟子が「聖なる存在者」になるための  
道徳を作るため。

今は必要なもの

※ 「第一等級の弟子を目指す」とは

⇒ 弟子が残り的人生をかけて、「聖人<sup>⊗</sup>になることを目指すということ。  
教養を養いながら

「聖なる存在者」を目指す」ということ

⊗ 「聖人」という言葉は、  
キリスト教において、  
深遠な意味がある  
本来は軽く口に出すものでは  
ないとのこと。  
けれど分かりやすく  
敢えて使ってきたもの

※ 教養を最高峰まで身に付けると、  
聖なる存在者になりやすい。

今は、ひたすらに

真理・真実・本質の勉強をすること!!

→ 先生の正式神聖指導に従って、勉強する。  
しっかりと連ねて行く!!

## <まとめ>

はじめに

心を平静に保つこと ... 極めて重要なこと、必須



より 平和な心 に導いてくれるもの

⇒ とても影響力があるもの ⇒ 前に進むように導いてくれるもの

心を平静に保ち、そして、必要なものを構築する

自分のすべての構成要素を洗い清めること

清潔は 敬神に次ぐ美德。

### 1. やるかやらないか、すべては自分次第

新受講生 ... ほとんどの人が 盲目

銀座書齋の たくじん箱に気が付かない

- 毎週、毎月... と 銀座書齋に通いつれて  
先生の下で学ぶにつれて、必要なこと 合理的なことなど  
いづれ箱に気が付くようになる  
実際にそれらは、生井先生が用意してくださったもの  
学習者と引き上げるために用意してくださったもの



受講生: 初めうちは

「自分を向上するために もっと勉強したい」(言)

↓  
実際には先生によって導かれ先生によって  
向上してもらっている

無意識のうちに向上している

{ 教材... 先生が創られた 本物の教材  
指導、先生 - 最高峰の指導法で  
最高峰の先生から

先生から様々な気づきや方向性を赋予している

→ 無意識のうちに導かれる。

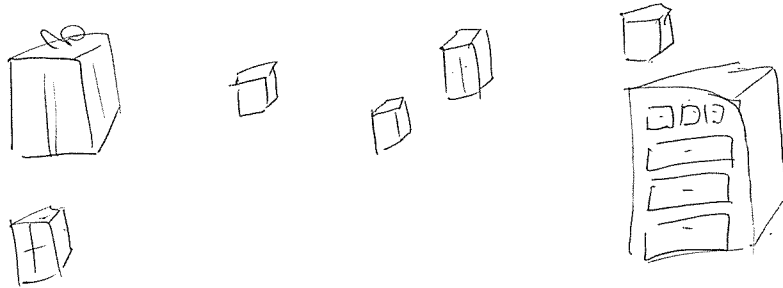
物質至上主義社会は かけひき、たし合いの世界

けれど、銀座書斎では、先生は 学習者を

人間として 正しく生きる道へと導いてくださっている

✕ 表面的なこと    ⊙ 本質と追求する道

銀座書斎には たくさんの箱がある



先生は、常に箱を用意してくださっている  
新しい箱も、とんてん追加してくださっている

たくさんの箱を見つけて開けて  
美味しく食べ続けること

すべては  
自分次第

2. ツイン 楕円の質を決めるのは 学習者本人

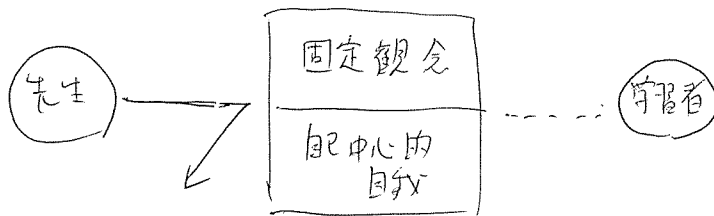
先生が賦与されるもの ... 学習者の 学びの姿勢 により変わる

かんはつ、心構えに応じて賦与される

かんはつは、かんはつほど ... より多くも  
より質が高いものを

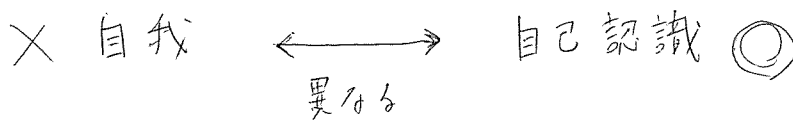
⇒ アリステリスに由来する 平等のポリシー

固定観念 } 不要なもの  
 自己中心的自我 } 先生から賦与されたものを  
 受け取ることに防げる



障壁. とはる

⇒ 捨てる!!  
取り除く!!



不要

知的大航海と  
防げる

必要

自分が何者であるのか  
自分自身と認識可なり

☆ 前にスムーズに進めるか進めないか  
すべては. 自分次第

### 3. 2種のテスト

(1) 一般的な (ローカルの) テスト.

～に合格する

点数による

→ このために表面的な知識を詰め込む

…… 本当の勉強ではない

(そして、終わったら すべて忘れてしまう)

(2) わかる人が受ける 普遍的なテスト

神から賦与される 試練

人間社会の本物のリーダー (もしくはリーダーになる) とある人

人を導く人

神から神聖に賦与される 試練 を

乗り越えることができるかどうか.

修養

のためのテスト.

より向上するためのテスト

弟子 -- 生井先生の下で修養される

勉強の目的.

自分のため or 他者、社会のため ?

自分の命 をどのように使うのか、使うべきか

自分のものか?

自分で手に取れたのか?

→ No! あへては、神から賦与されたもの

命も、そして考える力、知性も。

他者のために、社会のために 賦与された命を使う

その"命"は、本物の"命"になる

皆が喜び、そして、自分に与えられた"命"も喜び輝く。